

小学生が若山楮の栽培、加工、紙漉きに挑戦

12月19日(木)、拳ノ川小学校の5・6年生5名が若山楮和紙工房で紙漉き体験を行いました。この日漉いた和紙は、6年生の卒業証書になります。

同小学校では、「ふるさと・キャリア教育」の一環として若山楮の栽培・加工を1年を通し学びました。12月8日(日)に行われた「若山楮蒸し剥ぎ・へぐり体験」には全校児童が参加。若山楮に触れ、体験しました。

6年生の宮崎聖波^{せい は}さんは、「夏は暑くて畑での作業は大変だった。冬のへぐりや紙漉きは楽しかった。特に紙漉きは水の中から持ち上げるのは重たかったけど、自分が作った和紙が卒業証書になるのが嬉しい。思い出に残ると思う」と話しました。

若山楮栽培から加工の作業



①畑の手入れ、芽欠き

春から夏は主に楮畑の草抜きや芽欠き(不必要な枝などを除去する)作業を行う。



②刈り取り作業

11月下旬から12月上旬に2mほどに成長した楮を刈り取る。



③蒸し剥ぎ

刈り取った枝を3時間ほど蒸し、熱い内に枝から黒皮を剥ぐ作業。



④黒皮の乾燥

剥いだ黒皮を干して乾燥させる。



⑤へぐり作業

乾いた黒皮を水につけて戻し、専用の包丁でさらに皮を剥ぐ作業。



⑥さらし・乾燥

剥いだ白皮を水にさらす。この作業後、乾かすことで保存ができる。

紙漉き



①チリ取り

水にさらした白皮の細かなチリなどを取り除く作業。



②打開

チリ取りの後、白皮の繊維を開くため木で叩く作業。



③紙漉き

打開した白皮に水とネリを混ぜて漉き、天日干しして和紙の完成。